

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	滋賀県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	彦根市立稲枝中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	1	14	29
生徒数	153	157	169	2	481	

II 研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ意欲を育て、確かな学力をつける学習指導
 —生徒が意欲をもって主体的に活動する授業と評価方法の創造—

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 1・2・3年生（全学年）
 実施教科 国語・社会・数学・理科・外国語（英語）・音楽・美術・技術・家庭
 保健体育（9教科）
 本校では「学力」を「生活力・学習力」の2面からなる「生きる力」につながる総合的な力であると捉えている。そこで、一教科にとらわれず全教科での取組みを全教職員が進めることが重要であるという共通認識をもって研究を推進している。

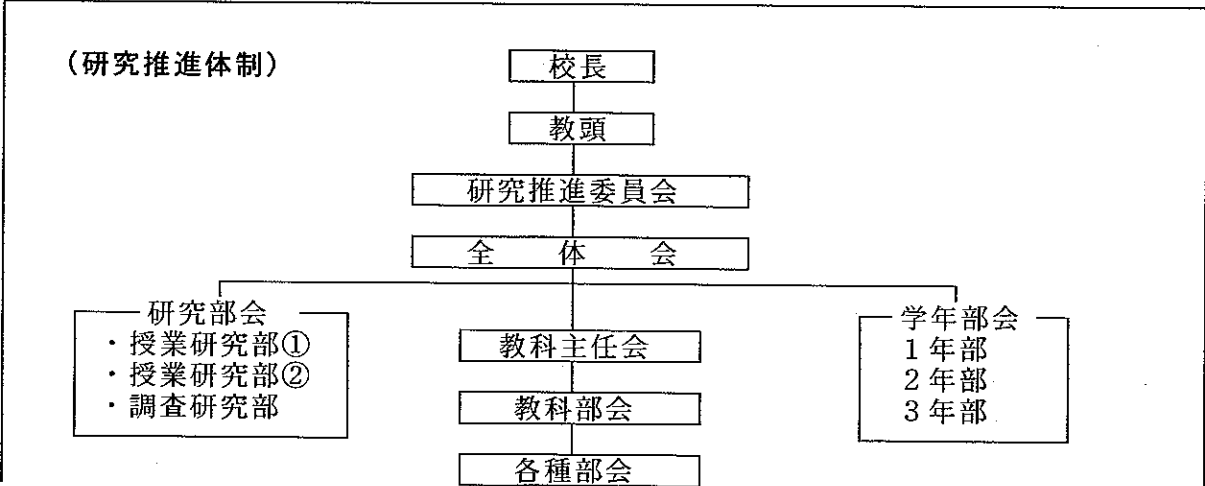
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ 自ら学ぶ意欲を育て、確かな学力をつける学習指導 —生徒が意欲をもって主体的に活動する授業と評価方法の創造—	
	○ 研究の見通し 実施内容	
	月	研 究 内 容
	4	・全員研修 研究主題・内容についての検討 「学力向上フロンティア事業について」
	5	・全員研修 研究主題の確認 5/6 ・全員研修 研究方法・研究計画の検討と研究組織について 5/28 「稲枝中生徒の生活・学力実態について」グループ討議
	6	・教科部会（教科毎に随時開催） 教科研究内容、評価についての検討 （平成15年度学習評価票、評価基準の検討） ・研究部会 3部会での研究内容についての計画 6/25
	8	・全員研修会「評価を生かした授業づくりについて」8/1 講師 野洲町立野洲中学校 校長 南出儀一郎 先生 ・全員研修 研究内容の検討、授業研について 8/27
	9	・学年部会 ・教科部会 授業研究会についての計画・内容確認
	10	【研究授業1】 英語（少人数）、音楽、美術 10/1 ・研究部会 ・教科部会 （第1回授業研究会反省、他） 【研究授業2】 社会、理科、国語 10/29
	11	【研究授業3】 国語、家庭、数学（少人数） 11/18 ・フロンティア事業第4地区第3回地区協議会 11/18 ・全員研修 11/26 研究授業1～3反省、課題協議 他
1	・全員研修会・部会協議 1/21 研究の総括（成果と課題） ・全員研修会 1/29 （学力向上フロンティア事業・稲枝中学校の研究について） 講師 大阪市立大学・大学院 木原俊行 先生	

2	・全員研修会・教科部会 次年度研究計画 年間計画の検討
○ 研究の内容・方法 以下の3部会による研究部会を設置し、併せて学校全体での研究組織体制を組み本研究を推進している。 (研究部会名・推進内容)	
・授業研究部① 生徒が意欲的、主体的に学習を展開するための授業改善の研究	
・授業研究部② 生徒の学習達成度を的確に把握し指導に生かす評価手法の研究	
・調査研究部 学習面や生活面においての生徒の実態調査、生徒の意識調査の実施 (学力の調査、少人数指導の効果の把握) など	

平成 16 年度	○ テーマ 自ら学ぶ意欲を育て、確かな学力をつける学習指導 －生徒が意欲をもって主体的に活動する授業と評価方法の創造－	
	○ 研究の見通し	
	月	研 究 内 容
	4	・教科部会 研究主題、内容についての教科検討
	5	・全員研修 研究主題、内容について
		・全員研修 研究方法・研究計画の検討と研究組織について
		・教科部会 (教科毎に随時開催)
	6	・教科部会教科研究内容(授業研、評価)についての検討 (平成16年度学習評価票、評価基準の検討)
		・研究部会 3部会での研究内容について
	8	・全員研修
		・全員研修 研究内容のまとめに向けての検討、授業研について
	9	・学年部会
		・教科部会 授業研究会についての計画・内容確認
	10	・全員研修 研究発表会に向けて
	11	・研究発表会 11月12日
12		
1	・全員研修会・部会協議 研究の総括(成果と課題)	
○ 研究の内容・方法		
・授業研究部① 生徒が意欲的、主体的に学習を展開するための授業改善の研究		
・授業研究部② 生徒の学習達成度を的確に把握し指導に生かす評価手法の研究		
・調査研究部 学習面や生活面においての生徒の実態調査、生徒の意識調査の実施 (学力の調査、少人数指導の効果の把握) など		

(3) 研究推進体制



〔推進の柱・取組みの重点〕

- ①個に応じた指導に生かせる評価の工夫
- ②生徒が意欲的、主体的に活動し確かな学力をつけるための授業改善
- ③少人数指導による個に応じた指導の工夫
- ④選択教科（発展的、補充的）の授業改善

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度は1年目ということもあり、校内研究会では研究主題の確認から一歩ずつ進めている。
 推進の柱①、②を中心にして、特に学習指導に関して、いかに全教師が参加し、交流しながら協議を進めるかという点に力点を置き、各教科の授業研究を中心に取り組んでいる。具体的には、学年所属を基本にして、教科毎に研究授業を持ち、教科の枠をこえて「形成的評価」を生かした指導方法の改善に向け取り組んでいる。

○各教科における授業研究会の実施内容

実施日・学年	1年	2年	3年
10月1日(水)	英語 (少人数指導) 複数形の学習 「ハンバーガーショップでの会話練習」	音楽 「感動的な合唱をめざして」 合唱コンクールに向けての合唱練習により生徒がお互いに練習を評価し学習する	美術 公共空間と立体造形 「石膏による立体造形」の制作
	指導・助言 大橋匡暢氏 (豊郷町立豊日中学校教頭)	藤池 聡氏 (滋賀大学教育学部附属中学校副校長)	西澤茂樹氏 (守山市立守山南中学校校長)
10月29日(水)	社会 身近な地域を知ろう 「地形図をみて身近な地域を調べよう」	理科 化学変化・物質の分解；グループ実験 「炭酸アモニウムの加熱分解」	国語 奥の細道
	指導・助言 宮嶋國彦氏 (守山市教育委員会学校教育課参事)	三原宏之氏 (滋賀県教育委員会学校教育課指導主事)	田中一文氏 (永源寺町立青野中学校校長)
11月18日(火)	国語 根拠を示そう	家庭 私たちの成長と家族	数学 (少人数指導) 関数とグラフ
	指導・助言 田川 学氏 (県総合教育センター研究員)	脇 淳子氏 (滋賀大学教育学部附属中学校教諭)	田中龍行氏 (彦根市立城南小学校校長)

(※ 体育科においては、市の授業研究会として別日程で研究授業を実施)

各授業を公開実施した後、学年所属を基本に担当教科の枠をこえたグループによる授業研究協議会を持って「個に応じた指導方法」、「授業方法の改善」等についての研究を進めている。
 また、これらの研究授業、研究協議会では教科毎に指導助言の先生を招聘し、専門的な立場からの教科指導と全体を見通した研究主題へのアプローチ方法について指導・助言を得て研鑽を積み重ねている。
 また、数学科、英語科では少人数指導に取り組み、個に応じた指導のための習熟度別学習にも取り組み始めている。
 また、調査研究部においては、本校の学習実態を把握するため、生徒、保護者、教師すべてに、生活面・学習面（教科授業の評価を含む）での意識調査を実施し、平成16年1月現在、調査結果を分析しているところである。

2. 今後の課題

今後の課題としては、以下の5つの点などを柱にして研究を推進していきたい。

- ・教科、単元毎の評価計画を作成すること。
- ・学校教育目標に掲げた求める生徒像にせまるため、各教科がその特色を生かしてどのように到達目標、評価を関連づけていくかを検討すること。
- ・さらなる指導と評価の一体化をめざすこと。
- ・確かな『学力』とは何をさすのか、学力についての概念をさらに探求し、教師全員が相互理解を深めていくこと。
- ・少人数指導による授業改善、選択教科・総合的学習の時間での取組みを検討していくこと。

IV 学力把握のための学校としての取組

平成15年度においては、全教科による授業（評価）改善を主な柱として研究に取組み、学校独自の学力調査は実施してない。
次年度に向け生徒の客観的な学力実態を把握する調査手法について検討をしているところである。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）

（平成15年度実績）

11月18日；中間発表会（学力向上フロンティア事業第4地区第3回地区協議会）を事業関係者をはじめとして、参加者を広く呼びかけ開催した。

対象：事業関係者（主として第4地区）、市内国語科主任、市内理科主任、10年経験者研修対象教員等。

（平成16年度予定）

11月12日；研究発表会を本校にて開催予定

* 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定

研究紀要として年次毎にまとめを作成し、県内市町村教育委員会、関係中学校に配布予定。

* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定（事業関係の県・市教育委員会主催研修会以外）

・県教育委員会「教育総合推進事業ブロック別研究協議会（湖北）8月6日分散会において本校の取組みとして、研究概要を説明。

・県教育委員会「教育課程研修会（理科）」12月24日

分散会にて研究概要、授業研究会での授業改善手法等を説明。

・滋賀県人権教育研究会彦根支部稲枝ブロック研究協議会 2月2日
ブロック内、各学校代表との協議において、研究概要を報告。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】

【学校規模】

【指導体制】

【研究教科】

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

■ 15年度からの新規校

□ 3学級以下

□ 7～9学級

■ 13～15学級

■ 少人数指導

□ その他

■ 国語

■ 外国語

■ 保健体育

■ 社会

■ 音楽

□ その他

□ 14年度からの継続校

□ 4～6学級

□ 10～12学級

□ 16学級以上

■ TTによる指導

■ 数学

■ 美術

■ 理科

■ 技術・家庭

■ 有

□ 無